

種名	<u>ク サ ガ メ</u> <u>Chinemys reevesii</u> 
分類	カメ目イシガメ科クサガメ属
俗称	ふつうイシガメの子ガメをセニガメ(銭亀)と呼ぶが、最近、縁日やペットショップなどで売られているゼニガメはクサガメの子であることが多い。成体は金線亀(きんせんがめ)として売られることもある。
形態的な特徴	メスはオスより大きくなり、背甲長は最大でオス 20cm、メス 30cm 前後である。甲羅の周縁にはほとんど鋸歯がなくなめらかで、背甲に3本の隆起があるが成熟個体では目立たなくなる。背甲の色は黒褐色で、各甲板の周縁が細く黄緑色に縁取りされている。頭部には、側面から頸部にかけて鮮明な黄色い筋模様がある。ただし、成熟したオスではこれらの黄色い模様がまったく消失し、全体が黒化する個体が多い。
分布	本州、四国、九州、佐渡島、隠岐、見島、対馬、壱岐、淡路島、五島列島などに分布する。一部は移入個体群。
繁殖行動	イシガメに比べ頭部が大きく、巻き貝や甲殻類など固いものを食べることに適している。基本的に昼行性で日光浴を好む。冬季は河川の岸辺の横穴や水の淀んだ池沼の深みなどの水中で冬眠する。メスは5月後半から7月に、畑や草地、畦、川沿いの土手の上などの比較的乾燥した場所に、後肢で穴を掘り産卵する。白い楕円形の卵を1回に4～11個ほど産み、そのあと再び土を埋め戻す。産卵回数は年に1～3回で、同じ場所を繰り返し利用する。孵化した幼体(子ガメ)は背甲長 30mm 前後で、ほとんどの個体が翌年の春まで産卵巣にとどまるが、その年の秋に出てくるものもある。
生息場所	中流から下流の水の流れがゆるやかな河川や低地の湖沼、およびその周辺をおもな生息環境としている。灌漑期にはこのような水域の周辺の水田でも見られる。イシガメが山麓部の河川や池沼に生息するのに対し、クサガメは平地の河川や池沼に生息する傾向がある。
食性	雑食性で魚や甲殻類、カエル、水草などを食べる。
生息環境への配慮事項	カメ類は、寿命が長いので各地でよく見かけるように思われがちだが、繁殖して世代をくり返している産地は少ないようである。日本産のカメ類のほとんどは、生息環境の悪化により各地で個体数が減少している。カメ類は寿命が長く成体は何年も観察され続けるため、生息環境の悪化がなかなか確認されないことがある。したがって「生息する」というだけでは環境指標とならず、「常にさまざまなサイズの個体がいる＝繁殖を繰り返している」ことではじめて良好な生息環境が保たれているといえることを認識しなければならない。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	